





へ13  
3077  
11



花鳥風月第四編卷之中

東都

梅亭金鷲編次



○  
 本町の雀庵を少のお柳の家かせし  
 相没を影とて在祈へ性しとありが主人  
 監えけおろす小貞の庵子の庵屋小  
 射しお柳を編して連出し月己う  
 生の花小せん







幸乃希のあり居ありり「イヤあまわア美芝の雲の先生  
夕暁日の性との約束ありて産まざるにんご利が  
来てその夏小今より掛り指年の頃とさうサト言  
うち将来は煙草金魚花小葉子ゆらりて「幸」今日  
久しかりの出来居かり自己の昔作ととこのさう  
美味のとは能走者やう物さるるは注又書をちりり  
傑作サ「あま」イやく「又」悪い怪し此処で美味のと兼とより  
山子元の山用か候と一葉波小浮せてま將標うら

故起「い」で「自己」のその「氣」ハ「大」なる「中」の「解」  
「公」衆「の」体「の」遠「く」一「人」を「裏」の「切」り「開」  
「枝」の「影」を「と」り「サ」全「体」を「破」る「と」い「ハ」入  
「與」ふ「と」も「と」も「と」も「と」も「と」も「と」も「と」も「と」も  
「そ」う「あ」つ「た」ら「ば」「大」に「幸」は「希」の「形」に「似」て  
「幸」「一」を「言」ふ「及」ぶ「と」も「と」も「と」も「と」も「と」も「と」も  
「後」あ「け」て「ア」引「取」ら「れ」る「と」も「と」も「と」も「と」も「と」も「と」も  
「宗」極「う」ら「ま」る「と」も「と」も「と」も「と」も「と」も「と」も「と」も「と」も



く己三ヶ巻母ととの入夏と初のこととてをて何分  
慕りてあつた人やアサ 幕一ハテ争を人やせん子親と  
いふもの石只例をあの何れ中虫かあるのこころを子  
幸一と 鬼白角由お初めお任せて出うけつと仕格りのヲ  
幕一 勿論の夏と子に用か係で志まらうと 幸一 又ぢやア  
下はとりみことごがは処の 幕一 志をうく初りもて  
彼地へ被てうくの夏と仕アうト是よう 幸一 弟一を  
支度として備元の女と呼 幸一 志知え性て一口吹て

四三

来るのどき、備母の徳月迄志と終人終ふはは長を志  
や日々著と例刻のや小藤床も致て志のどきよト  
後の夏とよく言付あるより志小庭へ下り裏は口  
よう 志びやうお茶子菴汁つと志芝の里あるお八重か  
察へ出て被らうい日の御針小傾むたて申刻下りしと終  
けり 夏ふまの長ねいお糸が糸小入りとて例の志  
相争い争い己が拵び小余銭なく 幕一 お坊ちん  
長ね色男が面白いのと拵て上まらう 此処へ安拵と



















あらうは有也云也と云ふは松口の傍け脱調子心を  
 慮り疾うか倍夜思案の胸をすへりく 孫を流るる  
 徳女のお柙を後て亡名を道をは方ゆきと落次第  
 とは脱落とておの腹慰せし唇癒えまじ今宵こそ目  
 比の思ひを晴さんめをと願りふ萌を無情小胸を焦  
 ちて右や左と思案小醉さ人焼らぬるん一再脱  
 長松の日暮ておのを歩けより又世の折燈の傍れい  
 せせと多智の魂の海小筆の筆さし紙押漕て舞は也

か燈還とと倍尺のの指子本線指の音の耳小入り矢定  
 を上げて志のちり眼とおまき「ヤ忘さささ」と何る因  
 章て葉投中一にて葉の房へ紐以しか強一をと係  
 爲る葉子の首を縋う、様由一葉示と志るが焼り  
 小まろー「イヤア上くあをア英味存るると控元氣  
 味と且粒さんの葉子菴病多と申刻らうと下出うけらう  
 何れも高葉の香女帯白如の家小お遠前左様と  
 するると今夜はお紙をへか夜具の袋で由以香ごう







とらへて徐と進ま入るあつたは自の夢は是と嘆とひら  
く「そのあつたを崩か掛つてぞ下りて候様あり立戻り  
寄らぬと察ひ居るぞとあつたぬか故ハ伴野跡去湯かお  
柵と渡りて逃ぐる」と思入るる有也 其也の故立戻れ  
ふ今宵とを幸は希とてふか入まんと幸は希か若子  
菴と出候とりのあつたさるゆゑ最花若くふ所は森  
あてあど十代の源しゆまへに候りの花と白赤の葉  
括結ひ下り急ぬの源く暗迷ふ湯寒足元は徐

り徐りと幸は希か森より退入りて新煙の火影と少く  
彼方へそむけ蒲団へおん身と持せ候意の所場へあど  
け多く居ほど不将史ぞと由言ひて兼てあつたと暫防  
宥懐居るうぐいしく竊し声とて候意の背中へ  
徐とまをりけ「モレエ 幸さんト言あつた少く押付「何とか  
疲まは此林小籠生アか睡てどエ不用心な眼とお覺え  
ト揺ちうせとゆは休むけとを 一勝らしこのと候工何時  
て由眼候いらせぬとあつたと撫合ヨト宿意と携つて



徐と入るる先小陣の帯の柄極んど竹の節うさへ  
小福と果ての骨うとゆふ斗り小身と震せ怖り驚き  
多と引けど幸は希由事候のいと驚く手幅添あ  
我まを乃を後あをりし此意を悟へて同あ此方  
ゆのと半美事疑まき林辺小摺よめて  
氣と操せり小由後があるワ宜加減小人と迷  
い候とつせを果て悪いのうエト言つ宿意の失  
の徳ともつて莞示と男の疾へ我疾の押付不ふ  
卷四中上

響り「此極小は是て由答う王と肥月小入るその  
まきと振是より限はるる小鼻差げと異歌の死を  
茶けはを「コアツと一變叫びも放中お政いさ  
倒是忽地息の絶るる廊下小聲ふ甚松の  
咲と踊り躍「そのやこそ東浦塞の井おと  
崩れおつてぞと我を忘る幸は希由事候  
へは倒さしお政をて怖り遠入る口を突ふ  
下て廊下へ進ぬか已か細工の思補塞を  
卷四中上







世に之借女や子傷を連る程あはれ心懐しそまう

ハ食え初まを成らうそぞ

鏡子の時を文彦のこゝろ娘を嫁が九板の白き子理之希

と家おせし夜更が仍方を尋んと却てお柳は鏡う窓ひ

られ夏の中の娘は是ハ婿男様ト云く文彦ハ中が貞

次希と云柳と家へ連り入りお嫁か仍方ハ侍既や去入

の者の人を信し追ふ在り江戸藤倉隈あはれまを不承

ふまと室夜日寂と程このこゝろ文不在家ハ思はる

けりおはれを貞次希ハ文彦へ宛の書さ不彼や是やとか

味か方の仍方と称しは後まの兄妻小虎む小部屋の

月小一人寂寥とて所らわう被方の時子ハ細司小内

も柳の程とき一眠さ荒示し笑顔とつくり柳ハ何々ま幼

えりやで乃彦いまうと書きては方由荒示さるる貞

流さしららう可怪不窺ひのこゝろサ柳ハ除く雨聲さ

ら半睡しふお在のとかお覚しやてお悪いと存しそ

何れもて日過徐とて所らわのいれ染ふらうそまの



新好解  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
乙女





ちらん巨面の皮どし折「オホ〜お後ぢやアツ存へもせんけ  
 色どと笑ひあがく貞徳帝の秋と栞〜さうおれを栞る  
 うちお柳の後〜小女が「お嬢さま久々のあはれと  
 あいよと膝子を足跡あり内へ送りて栞りあがく 柳  
 アハア本々の後村のお菓子を江戸〜先刻茶つゝ貞  
 徳帝へ両刀をひきいりあはれお栞りさうさう 持て栞て  
 せんふと秋又えんが女作生〜さうさう御か一生懸命  
 と判せ〜お菓を入とて栞りさう〜よと小判似の角本  
 の

盃へ茶古の煮次おたへ湯呑と口と芳名法雅が  
 づ松不揃へと樂境の小坪へ茶〜の菓菓子と栞ど  
 と茶を処へ歩〜アウお湯ハ此処のお大桶不ゆ沸て飛  
 と〜何うお塩氣不美味いお肴物を戴いて来は  
 る 小女 変ぢい矢張江戸のさうの大茶〜さうさう  
 中〜曲物のと戴いて来りませうと振舞は〜し不彼方へ  
 栞るは帝ハ先客を栞るさう見せやア栞が〜候と  
 ぢやア若旦那のさるのやうにおお扱不成と栞  
 ちやア若旦那のさるのやうにおお扱不成と栞



いはちやうが例の通り 儀不卜もて四代の子子うう英味  
 へ四代の子せんヨト葉を次へて次は孫不也に 一かあ  
 の茶碗ハ 柳「吾儕ハ宜しのて四代の子 一何宜の  
 が五りのりト四代又五りの主んとあると 一ア茶碗ある  
 吾儕が持へるりありますが 一五のが矢張西側ハ濃茶と  
 飲まりうううを様りて味ぐんぐんと仕かうり 柳「吾儕の  
 飲と後でか茶碗とト云うけ能と希く一吾儕の  
 後の支えやう不乳の煮物しは格はの格式不よりや

谷 四ノ下六

茶碗の儀きりも 柳「規心よりらうや 柳「生ア又よりう格一の  
 柳「しが四代の子をいこうち小親父さんの孫は戸へお出の  
 様りて四代の子をいト 一何お志てもお嬢さんの在敷が知れ  
 ねとらふのて指束不修後 柳「史也も親父さんの江戸小隠  
 きて番不遠ひるいこう 一久次帯の目世と柳「そとと  
 漏り所ん尋日と法作まうら 一志うーお嬢さんの才  
 の上のおらね内ハそ相を度とて黄ふも愛ありんぶらう  
 柳「吾儕ハまう御座へ 一茶つて茶は史性お八重さん小お目小



幾つぞお八重さんの夏を何と云てお呼中さううと若  
 勞小成てありません。アウウ姉さんと申しませう。総工  
 一るおおあが姉さん小成のおア後へ。一は心もお八  
 重さんハお悔より年が姉さんでアア赤子を産むのど  
 ののヨ。一りさるお極まはてんをア自己もあつと  
 うけ夜はアアお八重の夏と姉さんと云ひヨ。一  
 マア君が姉さんとお作てい可笑おアアお作い  
 せん。一可笑いらのヲ何ぞ自己もお極まはてり  
 せん。

命とあ、ぬて来とく。且那寺の和尚さんう友友と人  
 ても性で吐て見せヨ。一アアおアお出さるい。一  
 奥一おののア大をう苦く友とあの方へ茶碗とまを  
 お菓子へ何と云て赤いの。一ハい何方でも又味をうる方  
 と。一ま、お勝てる孩児がアアアアアアアアアアアア  
 居るとおおまのうを人おはくナ。一ア、お瓶が。一  
 ヤア、お瓶が。一ア、お瓶が。一ア、お瓶が。一ア、お瓶が。一  
 トおと赤い。一おお物へ何れおま。一おら。ト後方と見れい







